

西ノ辻遺跡第39次発掘調査報告

2001年12月

財団法人東大阪市文化財協会

例　　言

1. 本書は共同住宅建設に伴う西ノ辻遺跡第39次発掘調査の報告書である。
2. 本調査は奥林市松氏の委託を受けて財団法人東大阪市文化財協会が実施した。発掘調査に伴う工事は奥林氏から発注され安西工業株式会社が行った。
3. 現地調査と整理は藤城泰(故人)が担当し、西村和浩、西村泰彦、岸田勝行が補助員として従事した。事務局体制は次の通りである(2001年5月現在)。
 - 理事長　日吉亘
 - 常務理事　北山良(東大阪市教育委員会社会教育部参事)
 - 事務局長　小島進
 - 調査部長　同上(兼務)
 - 庶務部長　同上(兼務)
 - 庶務部員　朝田直美　大林亨
4. 本書は担当者急逝のため、残された原稿をもとに金村浩一が作成した。
5. 調査における土色名は農林水産省農林水産技術会議事務局監修財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に準じた。
6. 遺構実測は建設省告示による国土座標第VI系を使用し、基準点の移設は株式会社かんこうに委託した。水準高はT.P.値を用いた。
7. 遺物の写真撮影はスタジオG.F.プロに委託した。
8. 本調査の経費はすべて奥林市松氏のご負担によるものである。調査に対するご理解とご協力に感謝いたします。

目　　次

例言

1　はじめに	2
2　調査の概要	2
1. 層位	2
2. 第1遺構面(中世)の遺構と遺物	4
3. 第2遺構面(弥生時代)の遺構と遺物	8
3　まとめ	13
図版	
報告書抄録	

1 はじめに

西ノ辻遺跡は生駒山西麓部、標高7～20mの扇状地上に立地し、東大阪市東山町・弥生町・西石切町にかけて所在する。1941(昭和16)年に発見されて以来、京都大学や大阪府教育委員会、東大阪市遺跡保護調査会、財団法人東大阪市文化財協会などによって発掘調査がおこなわれ、縄文時代から現代にかけての遺構や遺物が確認されている¹。今回の西ノ辻遺跡第39次発掘調査地点は、本遺跡の西端部分、標高8m付近である。地籍では東大阪市西石切町3丁目175-1、176-1.5にあたる。調査着手までは畠地であった。なお、調査面積は約340m²、調査期間は1997(平成9)年1月6日～2月21日である。

調査は近年の盛土及び耕作土を機械によって掘削し、さらに遺物包含層を遺物を探集しつつ人力で掘削した。各堆積層の上面では遺構検出を行い、写真撮影と実測図を作製した。その結果、中世の遺物包含層、中世の造様面、弥生時代中期の遺物包含層、弥生時代中期の造様面を検出した。

以下に調査の概要を述べる。

2 調査の概要

1. 層位

断面実測は調査区の西壁と南壁で行った。各層の特徴を記す。

第0層 盛土

第1層 5Y4/1 灰色細礫混極細粒砂～中粒砂

第2層 2.5Y4/3 オリーブ褐色細礫混極細粒砂～中粒砂

第3層 7.5Y4/1 灰色細礫混シルト～中粒砂

第4層 2.5Y3/2 黒褐色細礫混粘土～シルト

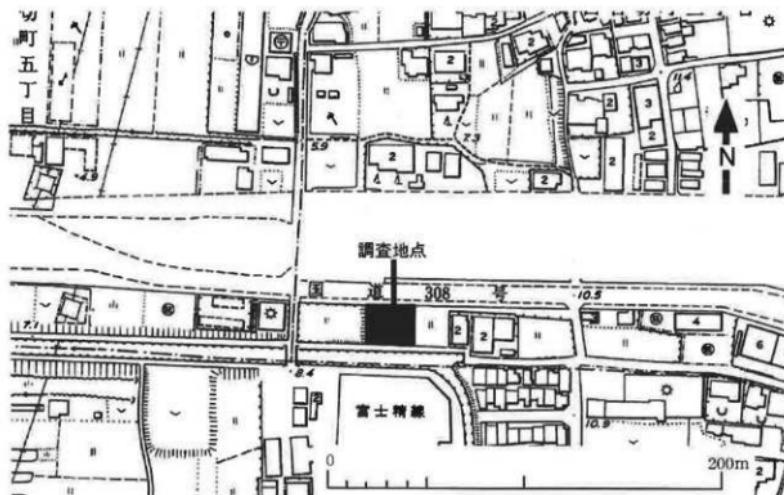


図1 調査地位置図(S=1/2,500)

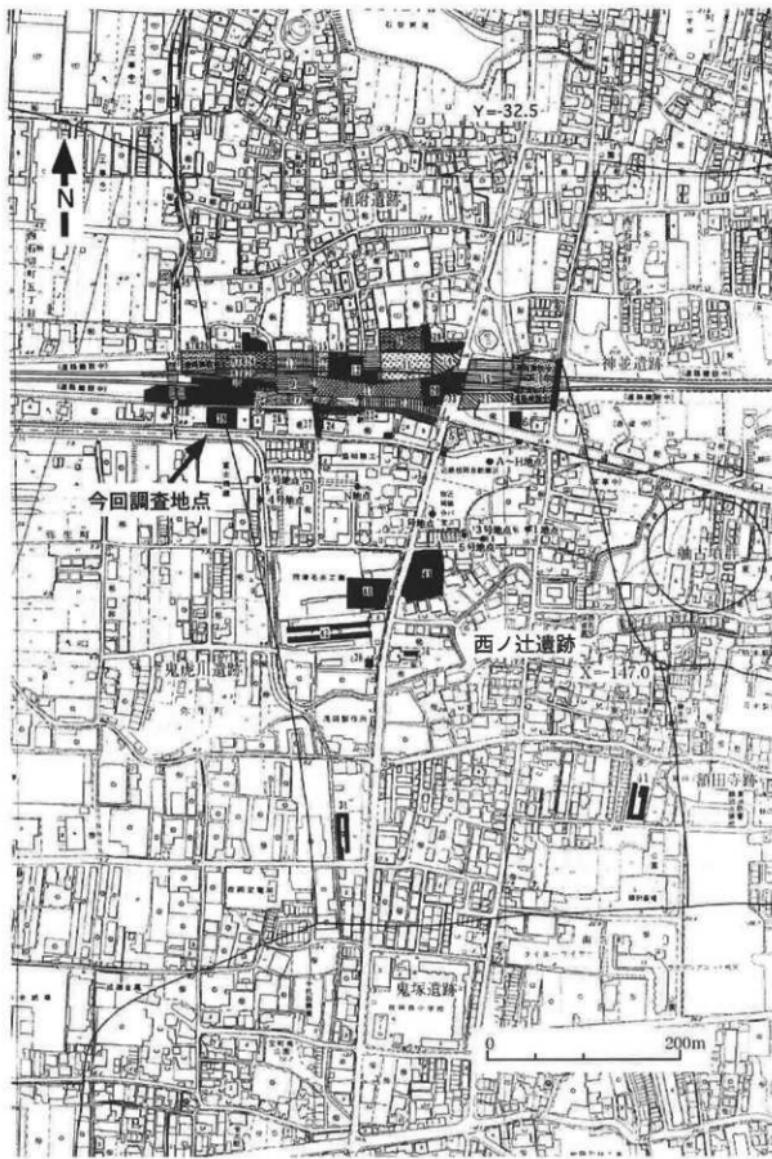


図2 西ノ辻遺跡と隣接遺跡(S=1/5,000)注1文献より転載加筆

第5層	7.5Y3/2 オリーブ黒色細礫混粘土～板細粒砂
第6層	10YR2/3 黒褐色細礫混シルト～中粒砂
第7層	2.5Y3/2 黑褐色細礫混シルト～中粒砂
第8層	2.5Y3/2 黑褐色細礫混シルト～中粒砂
第9層	10YR2/3 黑褐色細礫混シルト～中粒砂
第10層	10YR2/3 黑褐色シルト～細礫
第11層	7.5YR4/3 暗オリーブ色細礫混シルト～極細粒砂
第12層	10YR2/3 黑褐色シルト～細礫

第1～4層は耕作土あるいは耕作に伴う盛土と考えられ、堆積した時期は次に述べる中世の遺構群が廃絶した後と思われる。第4層には弥生土器片が含まれ、下層の第11・12層出土の土器と接合できた個体がある。

第5～7層は中世の遺構を埋めるもので、中世遺構群の廃絶後、耕作地に造成するための盛土と思われる。その詳細な時期などは明らかではない。

第8～12層は弥生時代の遺物を包含する。

遺構は第8・9層上面(第1遺構面)と第12層以下の地山上面(第2遺構面)で検出した。第1遺構面では主に中世の遺構を、第2遺構面では弥生時代の遺構を検出した。

次に遺構面ごとに遺構と遺物について述べる。

2. 第1遺構面(中世)の遺構と遺物

遺構には掘立柱建物1棟、柵2列、井戸4基、土壙4基、道路状遺構1、ピット多数などがある。

掘立柱建物1は調査区の東部で検出した。北東隅の柱穴は井戸1を切る。東西2間、南北5間で、それぞれ約4.5mと約8.5mを測る。柱間は一定でなく平面は不整形である。主軸は座標軸に対し北で約2°東へ振れる。柱穴内からの出土遺物がないため詳細な時期は不明である。

柵1は道路状遺構の側溝である溝2を切る。東西方向で主軸は溝2に沿う。5間分、約10mを検出した。柱間は不揃いで180～220cmを測る。詳細な時期は不明である。

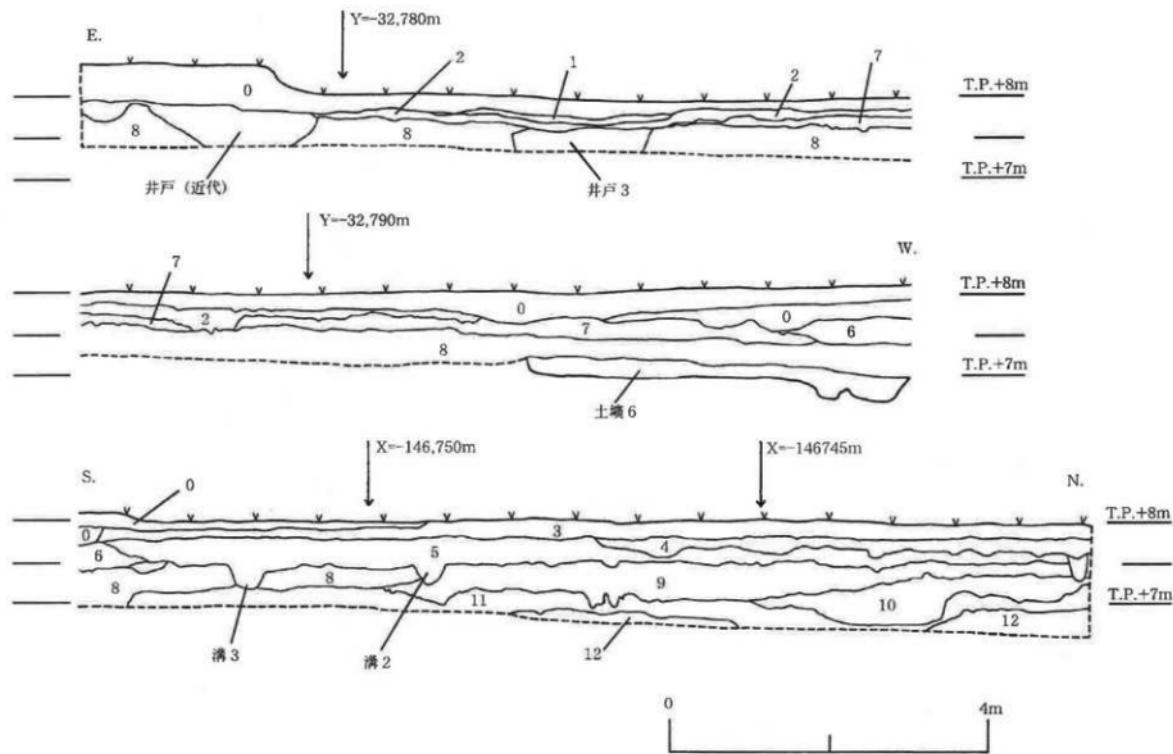
柵2も道路状遺構の側溝である溝3を切る。東西方向で主軸は掘立柱建物1沿う。4間分、約8.4mを検出した。柱間は不揃いで190～260cmを測る。詳細な時期は不明である。

井戸1は素堀りで平面形は円形を呈する。直径約1.1m、深さ約3.5mを測る。井戸内からは、瓦質土器、陶器、土師器、瓦器、瓦、漆器、籠状木製品などが出土している(図6)。1は土師器の羽釜である。口縁部を外反させ、端部を内側に折り返す。2は奈良火鉢である。三脚の脚をもち、丁寧なミガキが施されている。3は土師器小皿である。口縁部外面に1条のナデをもつ。4は大型の瓦質深鉢である。5は漆椀である。赤漆を塗布する。6は陶器の大型壺である。備前焼と考えられる。7は丸瓦である。外面には縦目、内面には布目が残る。8は平瓦である。外面はヘラケズリが施されている。9は籠状木製品である。これらの遺物から、井戸1の埋没時期は室町時代と考えられる。

井戸2は素堀りで平面形は円形を呈する。直径約1.0mを測り、深さ2.2mまで掘削し、以下は未調査である。井戸内からは青磁碗、須恵器、土師器、瓦器、瓦質土器、陶器などが出土した(図7)。10は青磁碗である。見込みに花文をもつ。これらの遺物から、井戸2の埋没時期は室町時代と考えられる。

井戸3は素堀りで平面形は不定形を呈する。調査区内には北半部のみがかかる。深さ1.1mまで掘削し、以下は未調査である。井戸内からは須恵器、土師器、瓦器、瓦質土器、陶器、磁器、錢貨などが出土した(図7)。11は土師器の羽釜である。12は瓦質羽釜である。13は備前焼の壺である。14は瓦質の擂鉢で

図3 西壁・南壁断面実測図



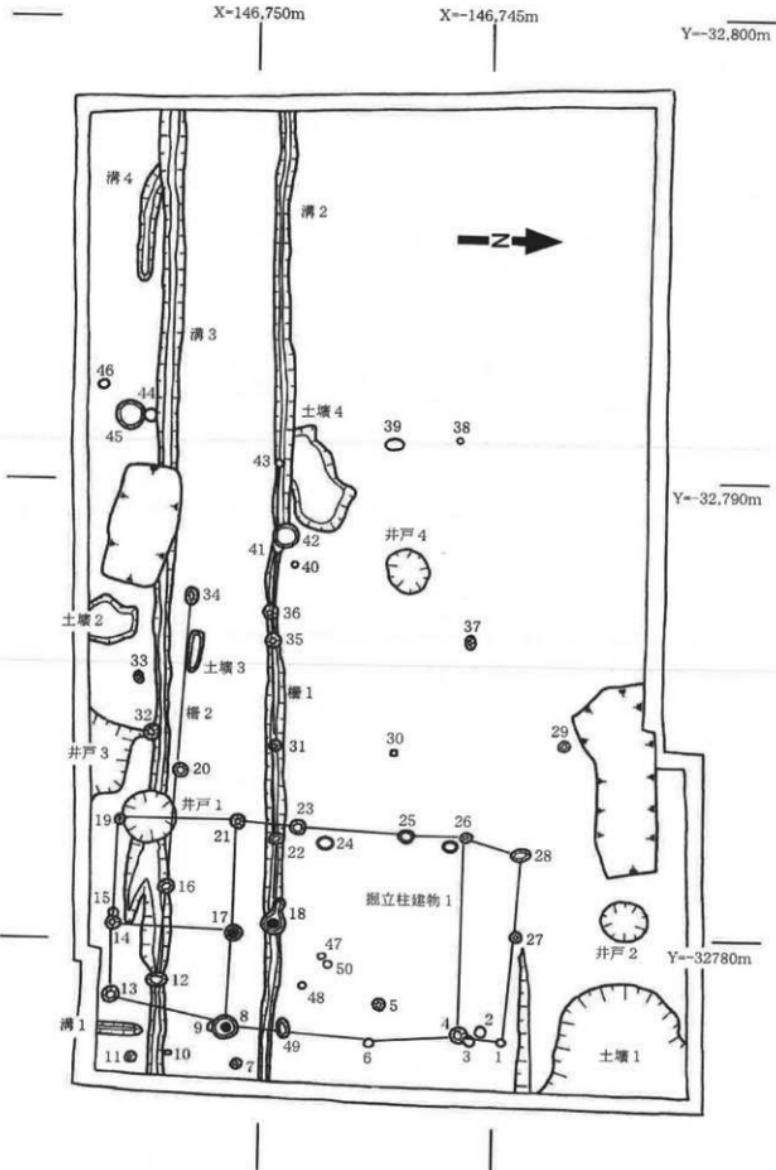


図4 第1遺構面(中世)平面図

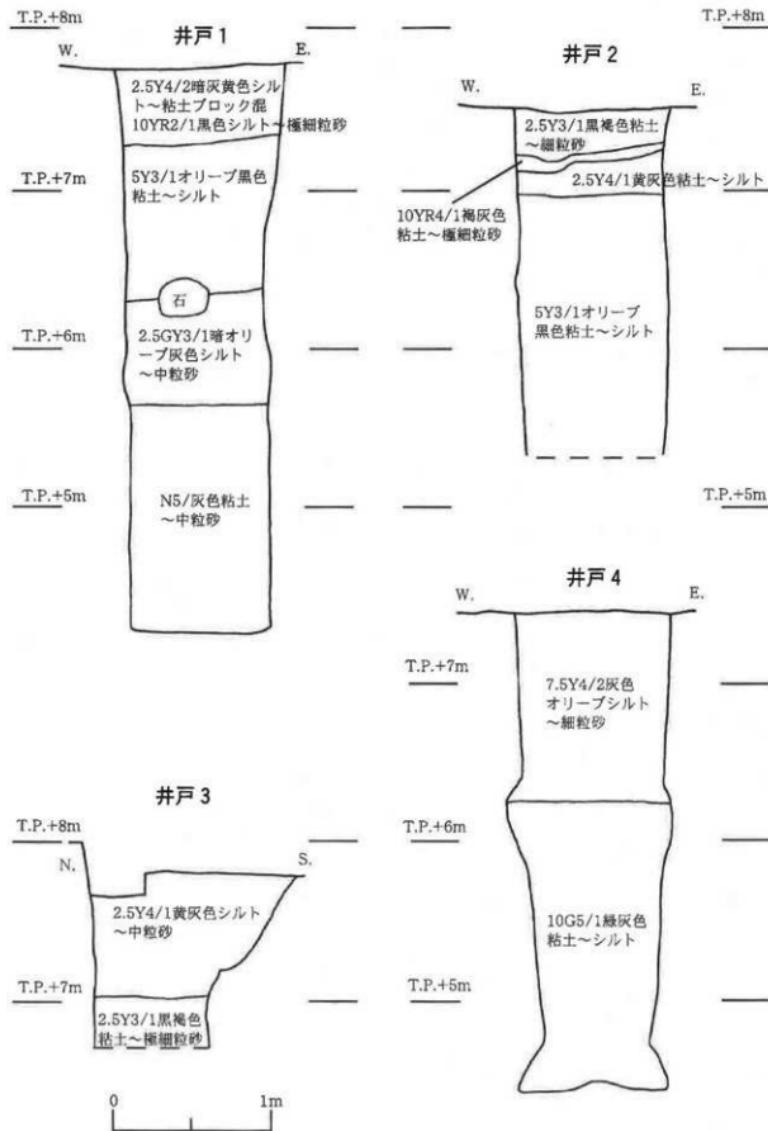


図5 中世井戸断面図

ある。15は瓦質花瓶の脚部である。16は銭貨である。約半分を欠損し、銭文は元□□寶としか読めない。相当するものに元豐通寶(北宋・初鑄1078年)、元祐通寶(北宋・初鑄1086年)、元符通寶(北宋・初鑄1098年)などがある。これらの遺物から、井戸3の埋没時期は室町時代と考えられる。

井戸4は素掘りで平面形は円形を呈する。直径約1.0m、深さ約3.0mを測る。底部はややフ拉斯コ状に広がっている。井戸内からは須恵器、土師器、瓦器、瓦質土器、木製品などが出土した(図7)。17~23は瓦器碗である。21・23は和泉型、それ以外は大和型である。24~26は瓦器皿である。内面から見込みにかけてジグザグの暗文が施されている。27~28は土師器小皿である。口縁部外面に一条のナデを有する。29は土師器羽釜である。口縁部は肥厚し外反する。胴部下半外面はケズリ調整されている。30は木材である。31は曲物の底板である。これらの遺物から、井戸4の埋没時期は鎌倉時代と考えられる。

土壤1は調査区の北東隅で検出した。平面形は円形を呈し、直径3m程度と推測される。深さ1.5mまで掘削し、以下未調査である。大型の井戸である可能性もある。土壤内からは須恵器、土師器、瓦器、瓦質土器、陶器、青磁などが出土した(図8)。32、33は土師器小皿である。口縁部外面に一条のナデが施されている。34は青磁碗である。見込みに文様をもつ。35は瓦質土器鉢である。36は瓦質土器深鉢である。37~40は瓦質土器羽釜である。いずれも直口で、口縁部外面がヨコナデ調整、胴部外面がケズリ調整、内面がハケメ調整されている。41は土師器羽釜である。口縁部は大きく内湾し、外面に2条の沈線をもつ。42は瓦質火鉢である。焼成不良のため土師質を呈する。43は瓦質壺である。44・46は陶器擂鉢である。45・47・48は瓦質擂鉢である。49は器種は不明であるが、備前焼の底部と考えられる。

溝1は調査区の東南隅で検出した。南北方向である。調査区外南に伸びる。瓦質壺の小片が出土しており、室町時代のものと考えられる。

道路状遺構と想定しているものは、溝2と溝3を側溝とする空間である。基礎や硬化面などが認められなかつたため道路状とした。東西方向に調査区を横断している。側溝を含む幅は西壁で約2.7m、側溝を含まない幅は約1.8mを測る。溝2は井戸1に切られている。溝2・3から出土した遺物はいずれも細片であり、詳細な時期は明らかではない。

3. 第2遺構面(弥生時代)の遺構と遺物

遺構には土壤3基、溝1条、ピットなどがある。

ピット62・51・他は約270cm間隔で1列に並び、掘立柱建物の一部である可能性が高い。

溝5は調査区を北東から南東方向に横切り、調査区の南端でとぎれている。断面は鋭い「V」字形を呈する。西ノ辻遺跡第8次調査SD29、同30次溝20の続きである²。遺構内から弥生時代中期の土器が出土したが、すべて細片であった。

土壤5は調査区中央で検出した。梢円形を呈する。溝5に切られ、土壤内にはいくつかの段がみられる。遺物は出土していない。

土壤6は調査区南西隅で検出した。調査区外に広がるため平面形は不明である。弥生時代中期の土器が出土した(図11)。50は長頸壺の口縁部である。51は無文鉢の口縁部である。52は鉢の口縁部で、外面に櫛描き波状文をもつ。

土壤7は溝5を切って作られている。平面形は梢円形を呈する。土壤内からは骨片が出土しており、土壤墓の可能性がある。土器は出土していない。

このほか、第4層から弥生土器(図12-53~55)が第11・12層から弥生土器(図12-56~61)と石器(図12-62)が出土している。

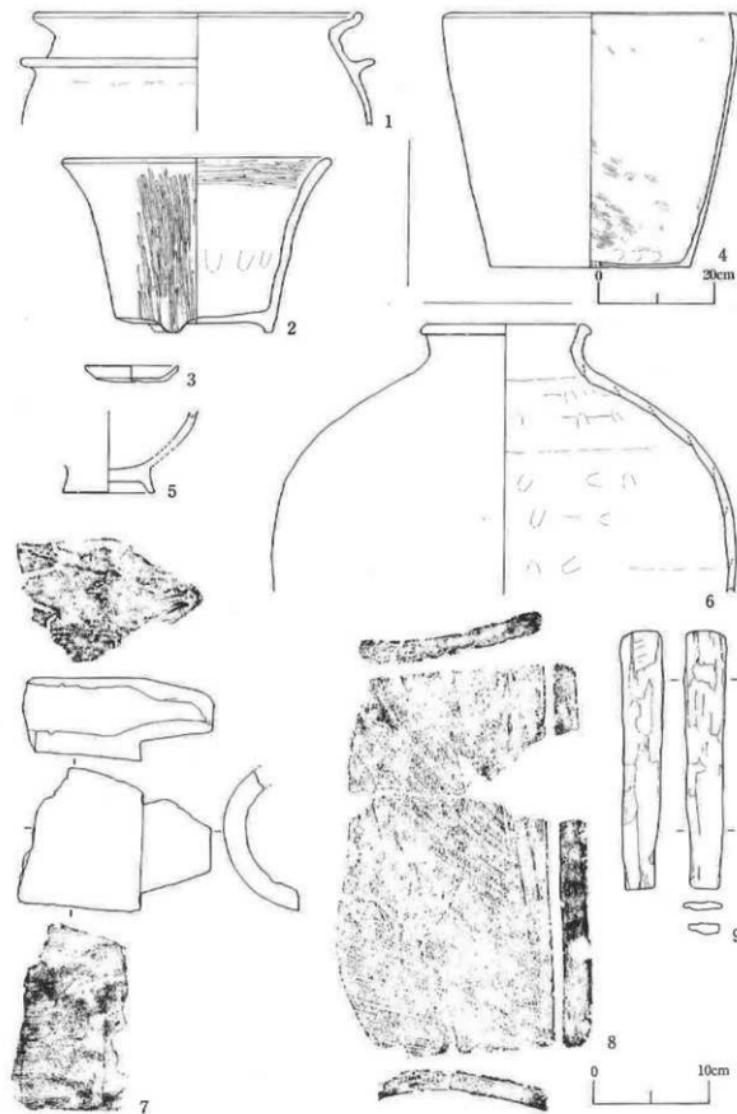


図6 井戸1出土遺物(4はS=1/8・他はS=1/4)

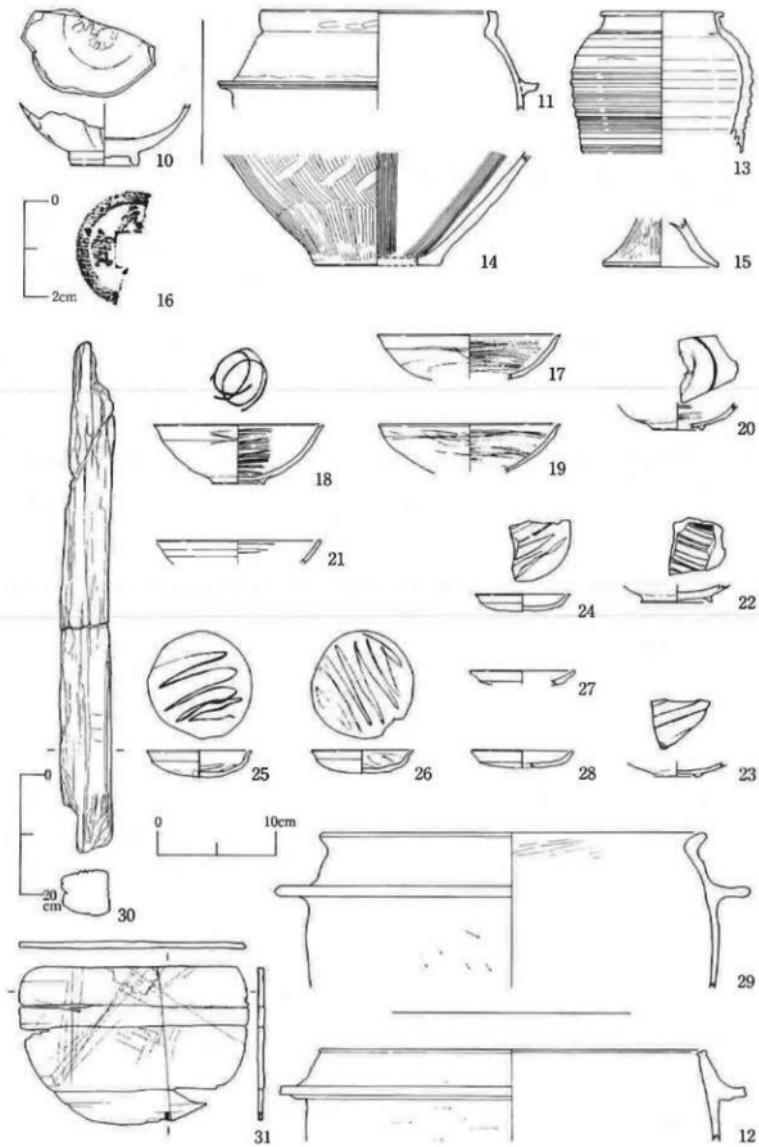


図7 井戸2(10)・井戸3(11～16)・井戸4(17～31)出土遺物(16はS=1/1・30はS=1/8・他はS=1/4)

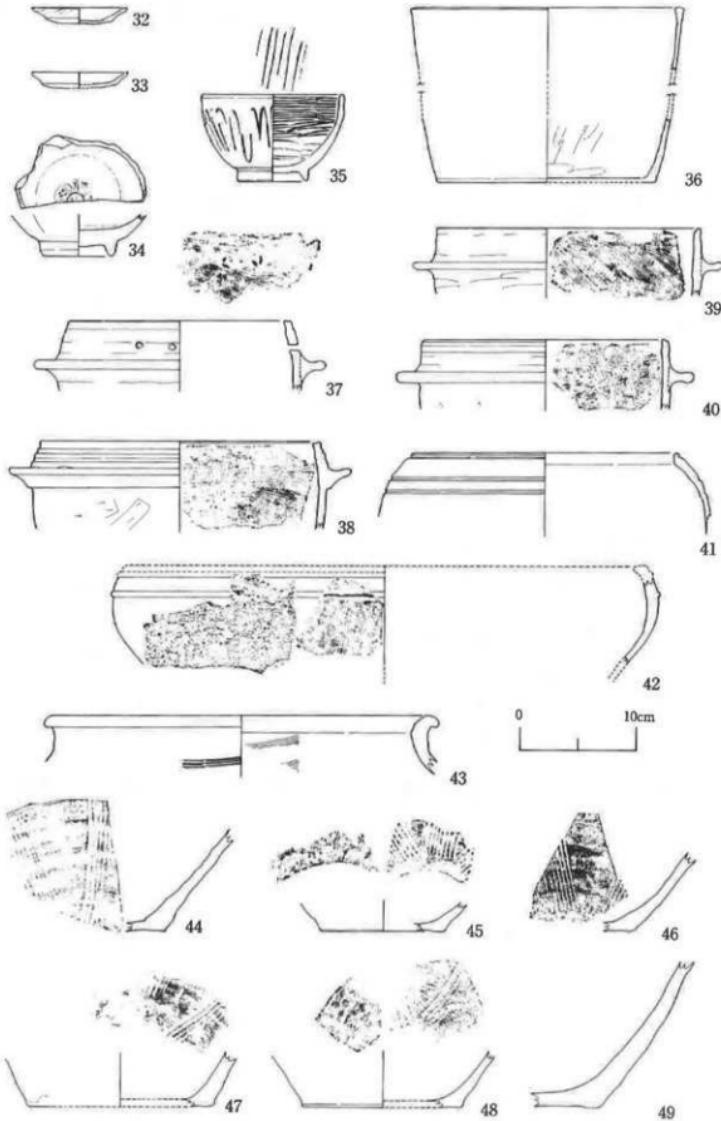


図8 土壌1出土遺物(S=1/4)

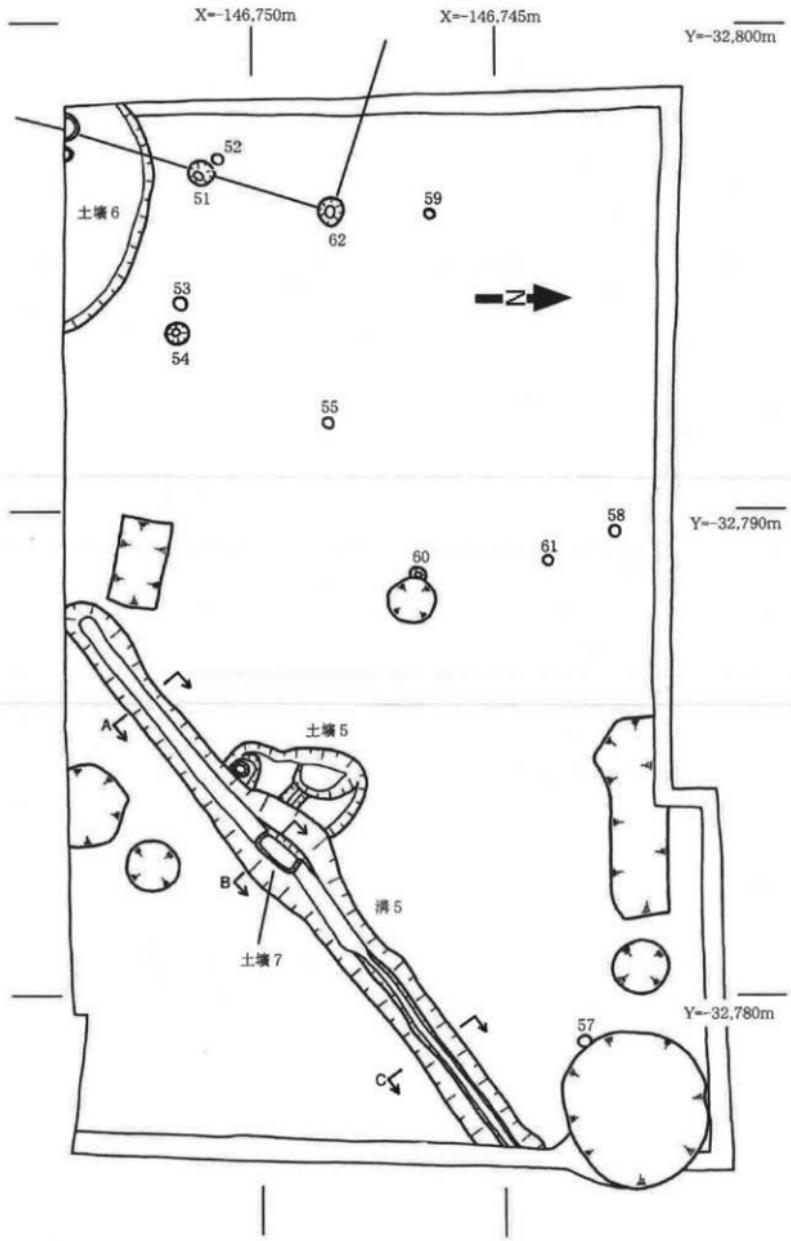


図9 第2遺構面(弥生時代)平面図(S=1/100)

3 まとめ

西ノ辻遺跡第39次発掘調査では、以上のように中世と弥生時代に関する資料を得ることができた。以下では、調査成果を列挙してまとめとしたい。

1) 中世

当期では掘立柱建物、井戸、溝、道路状遺構、ピットなど集落を構成する遺構を確認することができた。これらは鎌倉～室町時代のもので、主要な遺構は大きく3時期に分けられる。

1期=井戸4・道路状遺構
道路状遺構は井戸1に切られ、最も古いものと思われる。道路状遺構によって2つに土地が区画され、北側に井戸4が存在し屋敷地として利用されたものと考えられる。建物などの状況は不明である。井戸4出土遺物からその時期は13世紀頭と考えられる。

2期=井戸1～3・土壙1・橋1・溝1

1期の道路状遺構は消滅するが、土地区画は踏襲されるようである。道路状遺構の北側溝である溝2が存在した位置に橋1が設けられる。橋1の北側の区画には井戸2と土壙1が存在する。これらは同時に存在したものではなく、作り替え

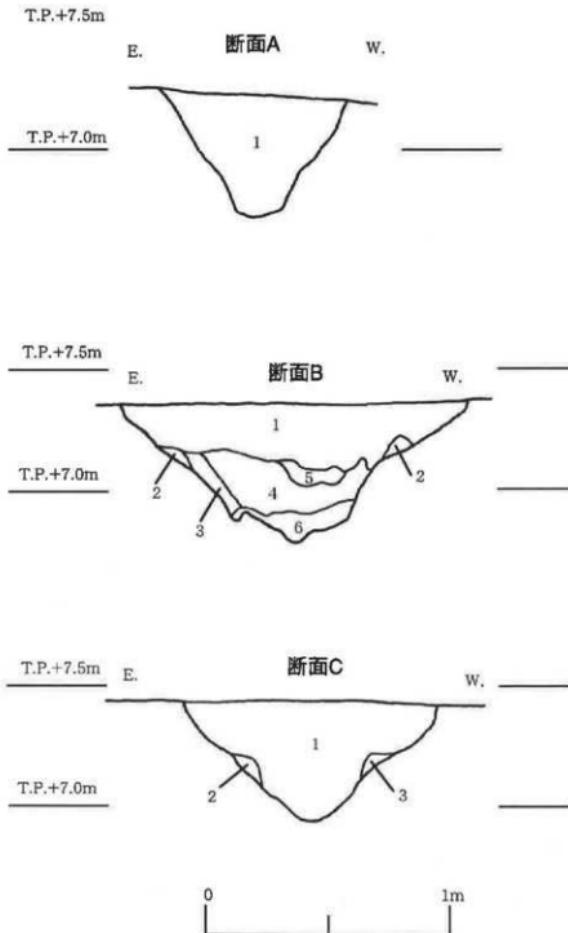


図10 溝5断面図(S=1/20)

1:2.5Y3/2黒褐色細繊混シルト～極細砂
2:10YR3/2黒褐色シルト～極細砂
3:7.5YR2/2黒褐色細繊混シルト～極細砂
4:10YR3/4暗褐色粘土～シルトブロック混合
5:7.5YR3/1黒褐色細繊混シルト～細砂
5:10YR2/2黒褐色細繊混粘土～シルト
6:5Y2/2オリーブ黑色粘土～シルト

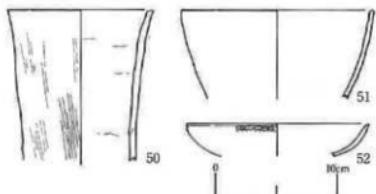


図11 土壌6 出土遺物(S=1/4)

敷地として利用されていたと考えられる。出土遺物からその時期は14～15世紀頃と考えられる。

3期 = 挖立柱建物 I・櫛2

掘立柱建物Iは井戸1を切り、最も新しい遺構と思われる。櫛2と掘立柱建物Iは同じ方位をとることから近い時期のものと思われる。2期までの土地区画は踏襲されていない。調査地周辺に近世集落が及んでいない点から、その時期は16世紀頃であろうか。

2)弥生時代中期

本調査区の東側の地点や西に隣接する鬼虎川遺跡の東部では方形周溝墓や土壙墓を検出している。また、從前本調査地周辺は西ノ辻遺跡と鬼虎川遺跡の境界部分に当たるとされているが、今回の調査でも検出した遺構は少なく、從来からの推定を追従する結果となった。

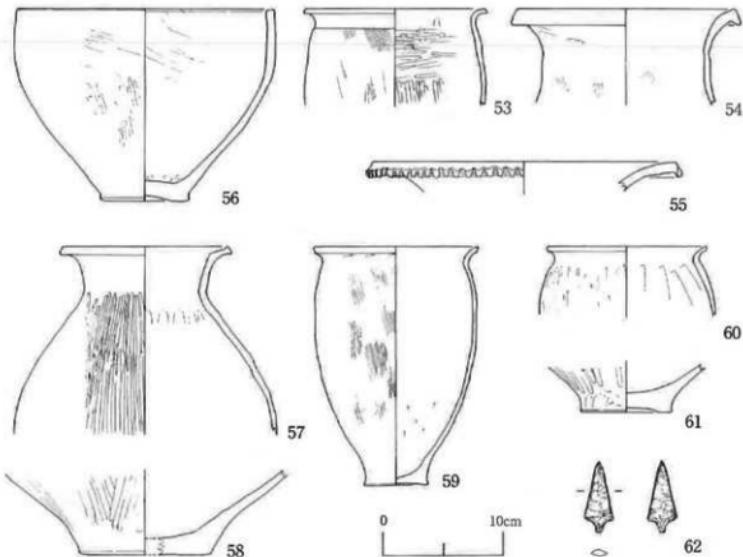


図12 第4層・第11・12層出土遺物(S=1/4)

注

1 現在(2001年5月末)では調査次数が45を越えようとしている。これまでの西ノ辻遺跡調査地点と文献については下記の報告書にまとめられている。

東大阪市教育委員会2001「第27章西ノ辻遺跡の第43次調査」『京大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告-平成12年度-』

2 鬼虎川遺跡第25次調査SD196も続いているが報告書の記載ではSD216とも思われる。

東大阪市教育委員会財團法人東大阪市文化財協会1988「鬼虎川遺跡第25次発掘調査報告」

財團法人東大阪市文化財協会1995「西ノ辻遺跡第30次発掘調査報告」

東大阪市教育委員会財團法人東大阪市文化財協会1988「西ノ辻・鬼虎川遺跡-西ノ辻遺跡第6次、第7次、第8次調査 鬼虎川遺跡第18次調査概要報告書-」

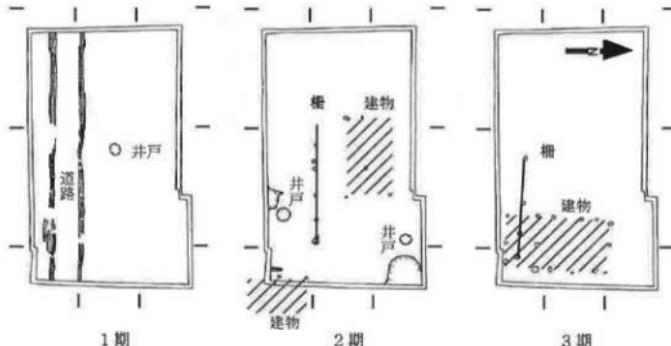


図13 中世遺構変遷図(S=1/400)

遺構名	縦	横	深さ	土色	上質	遺構面	遺物	備考
上塙1	280	270				第1遺構面		
上塙2	82	102	3 10YR3/2黒褐色	細織混シルト～極細粒砂		第1遺構面		
上塙3	89	29	7 10YR4/2灰黄褐色	細織混シルト～極細粒砂		第1遺構面	瓦器陶/土器器/須恵器	
上塙4	236	151	20 10YR2/2黒褐色	細織混シルト～中粒砂		第1遺構面	赤生土器/サヌカイト	溝3を切る。
上塙5	240	95	52 10YR1.7/1黒色	細織混シルト～中粒砂		第2遺構面		
上塙6	440	180	58 2.5Y3/1黒褐色	細織混シルト～中粒砂		第2遺構面	赤生土器/土師器	赤色顔料？
上塙7	120	42	69 2.5Y3/1黒褐色	細織混シルト～極細粒砂		第2遺構面	人骨？	
遺構名	上場幅	下場幅	深さ	土色	上質	遺構面	遺物	備考
溝1	28	12	4 2.5Y3/2黒褐色	細織混粘質シルト～シルト		第1遺構面	土師器/瓦質甕	
溝2	36	10	9 10YR4/3純い黄褐色	細織混シルト～中粒砂		第1遺構面	土器器/陶器	8個のヒット、上塙4に切られる。
溝3	49	19	20 10YR4/3純い黄褐色	細織混シルト～中粒砂		第1遺構面	赤生土器/須恵器	3個のヒット、井戸1に切られる。
溝4	32	14	15 10YR4/3純い黄褐色	細織混シルト～中粒砂		第1遺構面	土師甕	
溝5			2.5Y3/1黒褐色	細織混粘土～シルト		第2遺構面	赤生土器/サヌカイト	底部に黄色ブロックを含む。

表1 土壌・溝一覧表

番号	平面形	規模	深さ	上色	土質	直標面	備考
1 円形	19*19	14	10YR3/2黒褐色	細縫裂シルト～中粒砂	第1直標面	孤立柱建物	
2 柄円形	26*21	10.5	2.5Y3/1黒褐色	細縫・炭化物混粘土～シルト	第1直標面		
3 円形	25*25	10	2.5Y3/3暗オリーブ褐色	細縫裂粘土～シルト	第1直標面	ヒット4を切る。	
4 柄円形	42*36	33.5	10YR4/1褐灰色	細縫裂粘土～中粒砂	第1直標面	ヒット3に見られる。孤立柱建物	
5 円形	26*26	6	10YR4/1褐灰色	細縫裂粘土～中粒砂	第1直標面		
6 柄円形	20*17	8	N3/暗灰色	細縫裂シルト～細縫裂砂・熟分沈着	第1直標面	孤立柱建物	
7 不整形	23*25	9	2.5Y3/1黒褐色	シルト～細砂・細縫多量	第1直標面	ヒット9を切る。	
8 柄円形	52*42	20	10YR3/1黒褐色	細縫裂シルト～細砂	第1直標面	ヒット8に見られる。孤立柱建物	
9 柄円形	20*16	不明	2.5Y4/1黄褐色	細縫裂シルト～細縫裂砂	第1直標面		
10 方形	12*10	不明	2.5Y4/2暗黃褐色	シルト～細縫裂砂	第1直標面		
11 円形	24*24	10	SY2/2オリーブ黒色	細縫裂シルト～細砂	第1直標面		
12 柄円形	39*32	11.5	2.5Y3/1黒褐色	粗縫・炭化物混粘土～シルト	第1直標面	粗2。	
13 円形	30*40	14	2.5Y4/1黄褐色	細縫裂シルト～細砂	第1直標面	孤立柱建物1	
14 円形	30*30	8	2.5Y4/1黄褐色	細縫裂シルト～細縫裂砂	第1直標面	ヒット15に見られる。孤立柱建物1	
15 円形	25*25	6	2.5Y3/1黒褐色	細縫裂粘土～粗砂	第1直標面	ヒット14を切る。	
16 柄円形	28*34	12	2.5Y3/1黒褐色	細縫裂粘土～粗砂	第1直標面	ヒット2を切る。粗2	
17 不整形	31*31	13	2.5Y3/2黒褐色	細縫裂粘土～粗砂	第1直標面		
18 不整形	73*46	39	2.5Y3/1黒褐色	細縫裂粘土～粗砂	第1直標面	粗2を切る。	
19 円形	20*23	不明	10YR4/1褐灰色	細縫裂シルト～粗砂	第1直標面	井戸口に切る。孤立柱建物1	
20 円形	28*28	8	10YR3/2黒褐色	細縫裂シルト～粗砂	第1直標面	粗2	
21 柄円形	35*30	9	2.5Y3/1黒褐色	細縫裂粘土～粗砂	第1直標面	孤立柱建物1	
22 柄円形	31*26	8	2.5Y4/2暗黃褐色	細縫裂シルト～粗砂	第1直標面	粗2を切る。粗1。	
23 円形	30*30	13	2.5Y4/1黄褐色	細縫裂粘土～粗砂	第1直標面	孤立柱建物1	
24 円形	22*22	11	2.5Y4/1黄褐色	細縫裂シルト～粗砂	第1直標面		
25 柄円形	29*22	19	5Y4/1灰色	細縫裂砂～中粒砂・細縫多量	第1直標面	孤立柱建物1	
26 円形	23*23	13	2.5Y3/1黒褐色	細縫裂粘土～粗砂	第1直標面	孤立柱建物1	
27 円形	34*34	18	2.5Y3/1黒褐色	細縫裂シルト～粗砂	第1直標面	孤立柱建物1	
28 柄円形	39*29	10	2.5Y4/1黄褐色	細縫裂シルト～細砂	第1直標面	孤立柱建物1	
29 円形	22*22	15	2.5Y3/3暗オリーブ褐色	細縫裂シルト～細縫裂砂	第1直標面		
30 方形	13*13	11	10YR4/1褐灰色	細縫裂シルト～細砂	第1直標面		
31 円形	24*24	16	2.5Y4/1黄褐色	細縫裂シルト～細砂	第1直標面	粗2を切る。粗1。	
32 不整形	37*30	9	2.5Y4/2暗黃褐色	細縫裂粘土～粗砂・熟分沈着	第1直標面	井戸口3を切る。	
33 円形	26*26	14	2.5Y4/2暗黃褐色	細縫裂シルト～細砂・熟分沈着	第1直標面		
34 円形	31*31	3	2.5Y4/2暗黃褐色	細縫裂粘土～粗砂	第1直標面	粗2。	
35 円形	29*29	7	2.5Y4/1黄褐色	細縫裂シルト～中粒砂	第1直標面	粗2を切る。ヒット42に見られる。粗1。	
36 円形	30*30	6	2.5Y3/3赤オリーブ褐色	細縫裂シルト～粗砂	第1直標面	粗2を切る。	
37 柄円形	25*20	13	2.5Y3/2黒褐色	細縫裂シルト～粗砂	第1直標面		
38 円形	12*12	47	5Y3/1オリーブ黒色	粘質シルト～中粒砂	第1直標面		
39 柄円形	35*27	17	10YR3/2黒褐色	細縫裂シルト～細縫裂砂	第1直標面		
40 円形	18*18	6	10YR3/1黒褐色	細縫裂粘土～細縫裂砂	第1直標面		
41 柄円形	30*24	不明	2.5Y3/1黒褐色	細縫裂粘土～細縫裂砂	第1直標面	井戸口2を切る。ヒット42に見られる。粗1。	
42 円形	50*50	16	2.5Y4/1黄褐色	細縫裂シルト～細縫裂砂	第1直標面	井戸口ヒット42に見れる。	
43 円形	20*20	9	2.5Y4/1黄褐色	細縫裂シルト～細縫裂砂	第1直標面	粗2を切る。粗1。	
44 円形	30*30	4	2.5Y4/2暗黃褐色	細縫裂シルト～中粒砂	第1直標面	井戸口に切られる。	
45 円形	57*57	12	2.5Y4/1黄褐色	細縫裂シルト～細砂	第1直標面		
46 円形	24*24	4	2.5Y4/2暗黃褐色	細縫裂シルト～細砂	第1直標面		
47 不整形	13*16	7	10YR3/2黒褐色	細縫裂粘土～粗砂	第1直標面		
48 円形	13*13	10	10YR3/1黒褐色	細縫裂粘土～粗砂	第1直標面		
49 柄円形	40*27	25	2.5YR3/2黒褐色	細縫裂粘土～中粒砂	第1直標面	孤立柱建物1	
50 円形	19*19	5	不明	不明	第2直標面		
51 円形	48*48	17	10YR2/1黒色	粗縫裂シルト～粗砂	第2直標面	孤立柱建物2	
52 円形	21*21	20	2.5Y3/1黒褐色	細縫裂粘土～シルト	第2直標面		
53 円形	23*23	12	2.5Y3/1黒褐色	細縫裂シルト～細縫裂砂	第2直標面		
54 円形	47*47	3	5Y3/1オリーブ黒色	細縫裂粘土～粗砂	第2直標面		
55 円形	30*30	16	7.5YR3/2黒褐色	細縫裂シルト～細砂	第2直標面		
57 円形	27*27	6	2.5Y3/2黒褐色	細縫裂粘土～中粒砂	第2直標面		
58 円形	32*32	15	10YR3/1黒褐色	細縫裂シルト～中粒砂	第2直標面		
59 円形	46*46	26	5Y2/2オリーブ黒色	細縫裂粘土～シルト	第2直標面		
61 円形	18*18	25	不明	不明	第2直標面		
62 円形	55*55	16	10YR2/1黒色	粘土～中粒砂	第2直標面	孤立柱建物2	
63 円形	22*22	16	5YR2/2オリーブ黒色	粘土～細砂	第2直標面		

表2 ピット一覧表(表56・59は欠番)

図 版



調査着手前状況
(南西から)



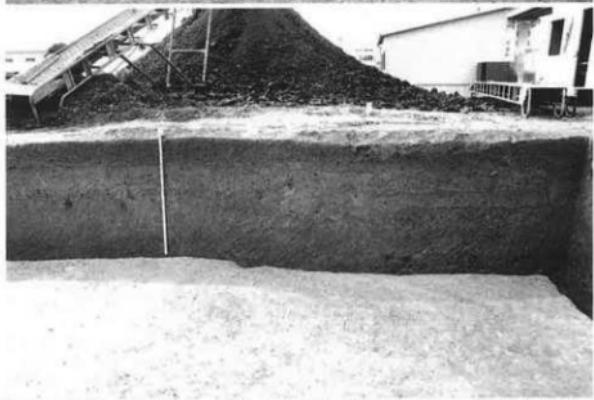
機械掘削風景
(南西から)



調査風景
(南東から)



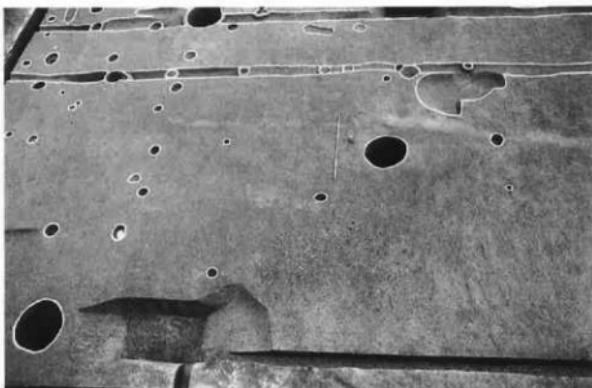
西壁中央部断面
(東から)



西壁北部断面
(東から)



南壁断面
(北から)



第1造構面南半
(北から)



土壌Ⅰ
(南から)



土壌Ⅰ断面
(南から)



井戸 1
(北から)



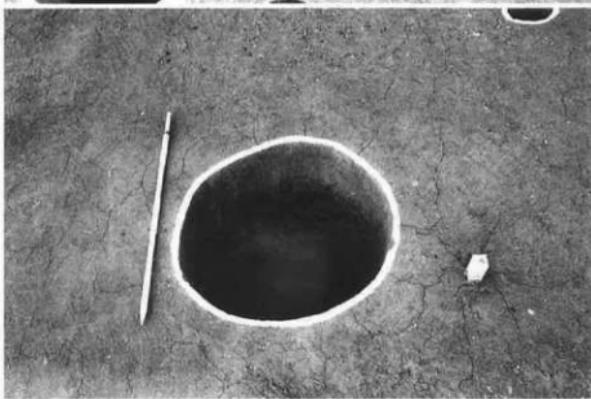
井戸 1 内部
(北から)



井戸 1 完掘状況
(北から)



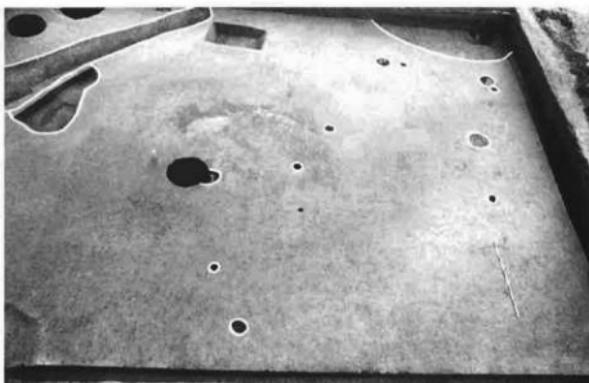
井戸3
左下は井戸1
(北から)



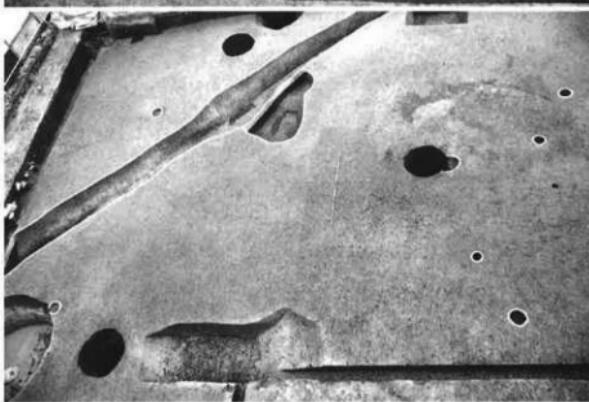
井戸4
(南から)



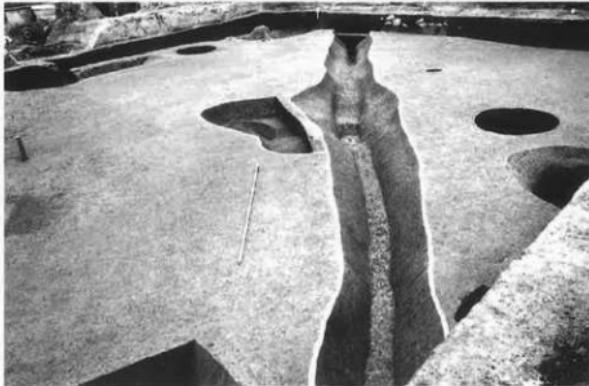
井戸4調査状況
(南から)



第2造幣面西半
(北から)



第2造幣面東半
(北から)



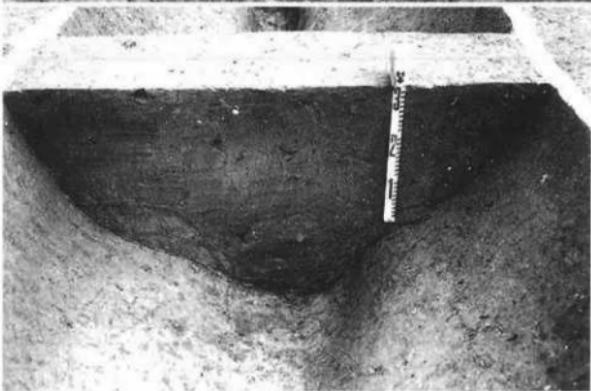
溝5
(南西から)



溝5断面A
(北東から)



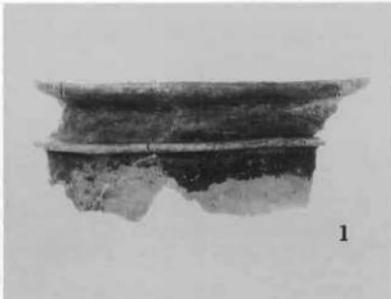
溝5断面B
(北東から)



溝5断面C
(北東から)



2



1



4



3

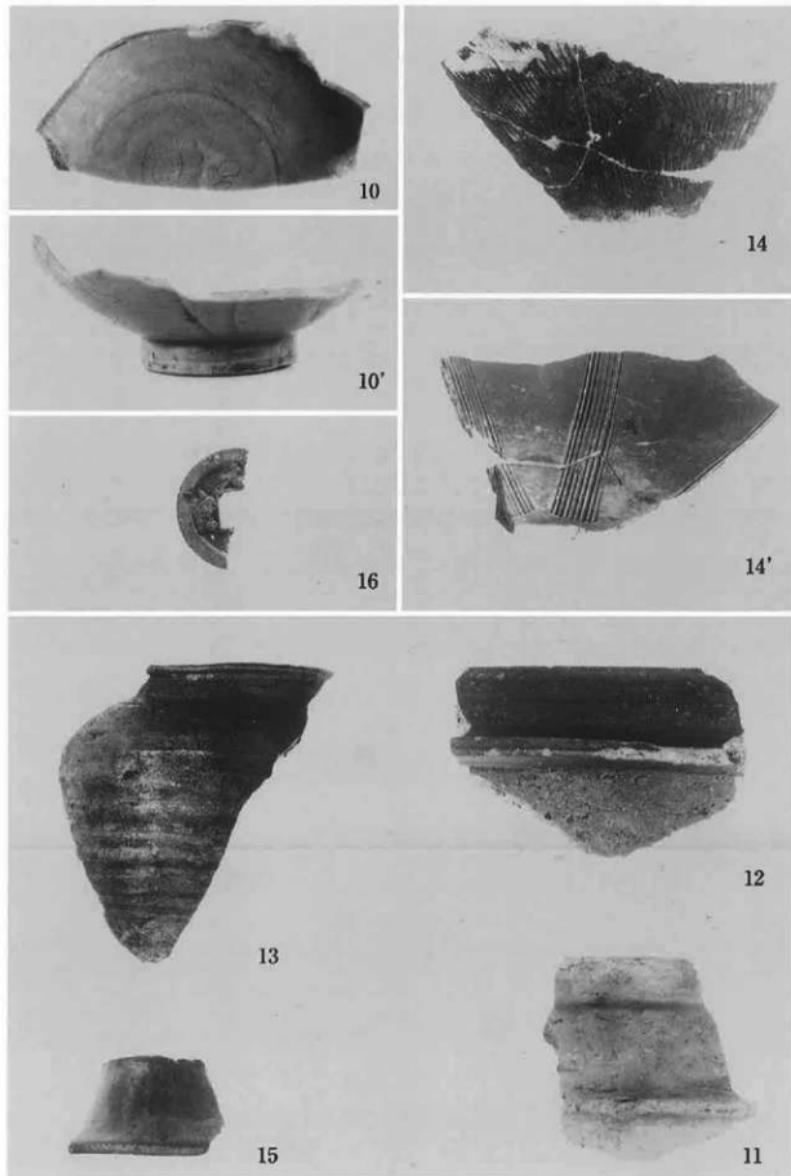


6

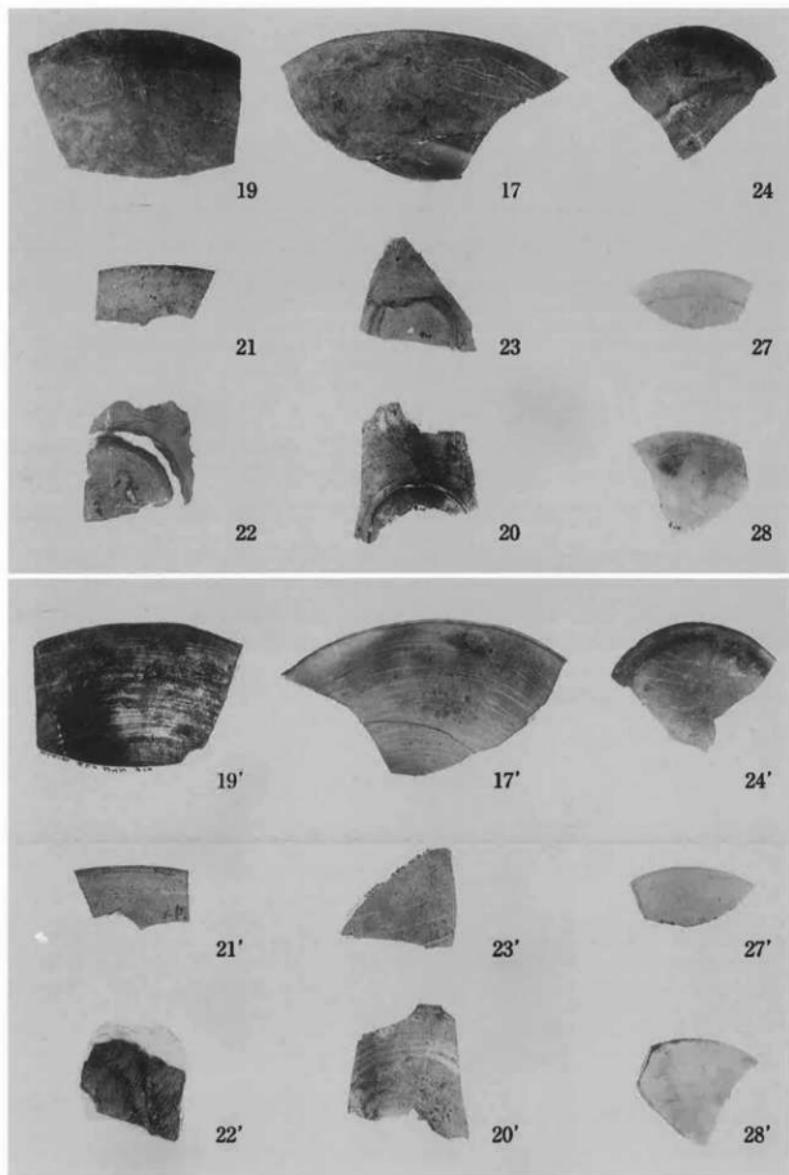


9

井戸 1 出土遺物(9 は S=1/2・16 は S=1/1)



井戸2・3出土遺物(16はS=1/1)



井戸 4 出土遺物(表裏)



18



34



25



35



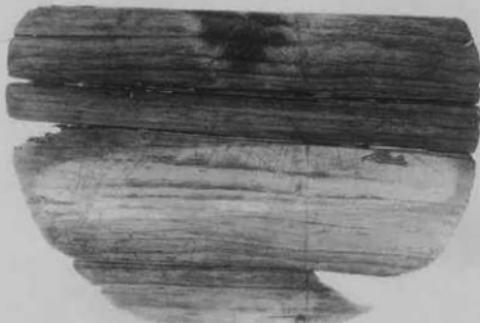
26



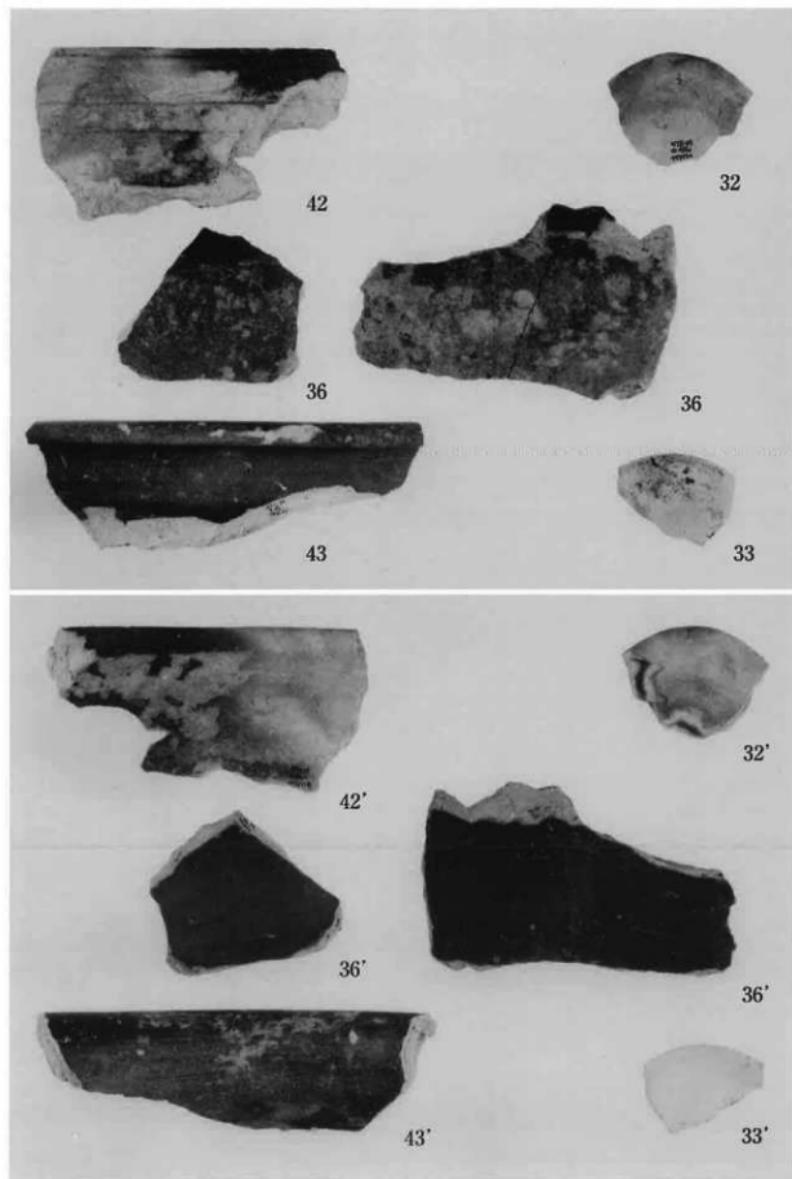
29



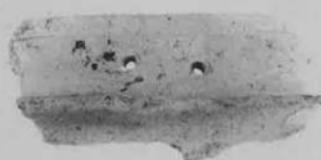
36



31



土壤Ⅰ出土遺物(表裏)



37



39



38



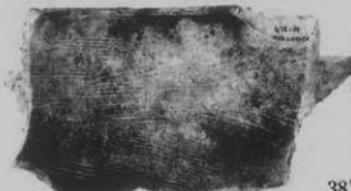
40



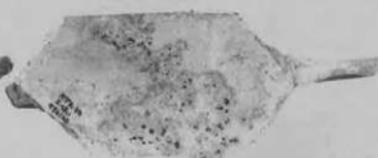
37'



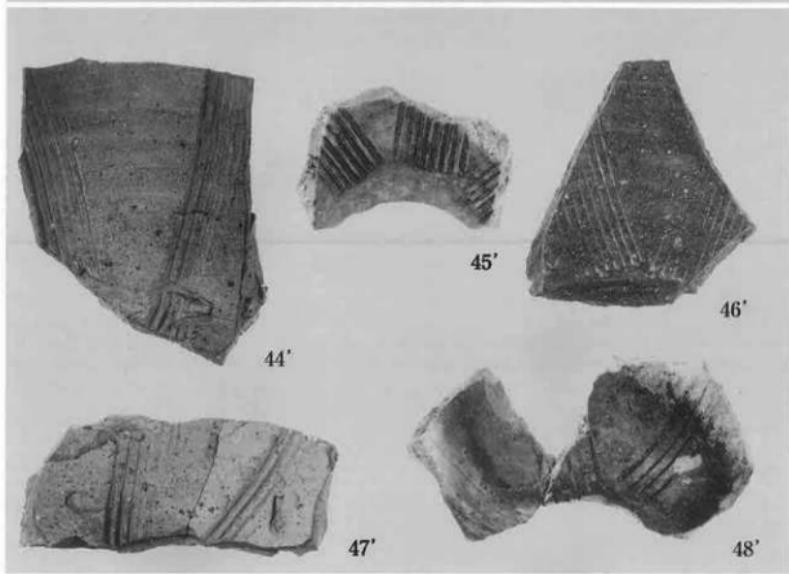
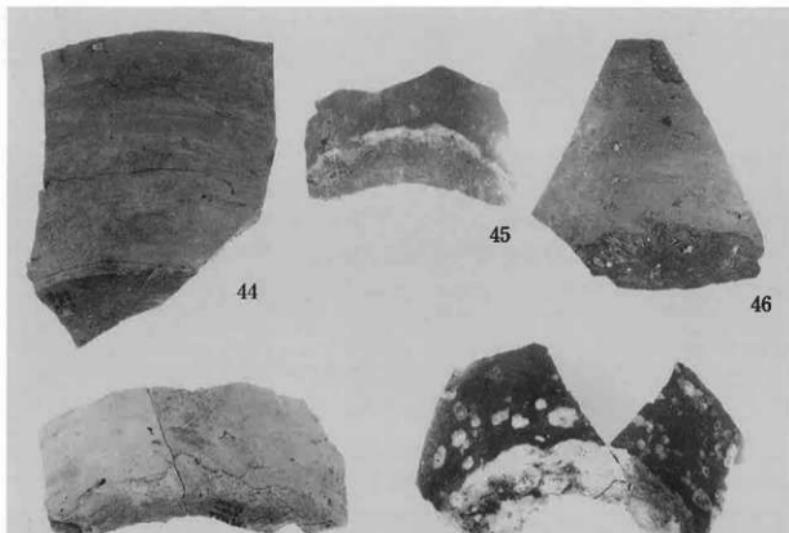
39'



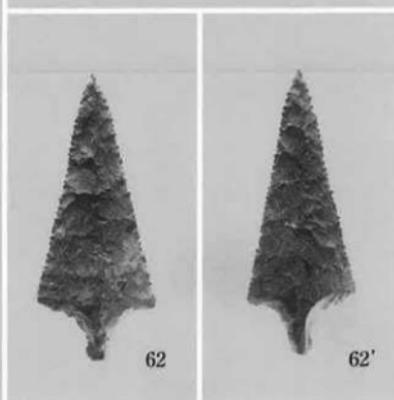
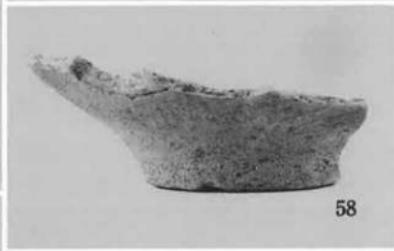
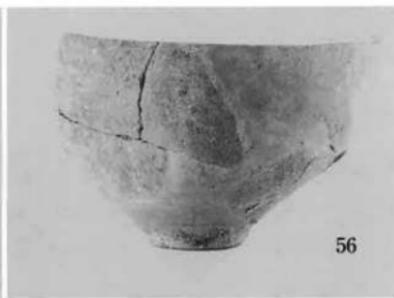
38'



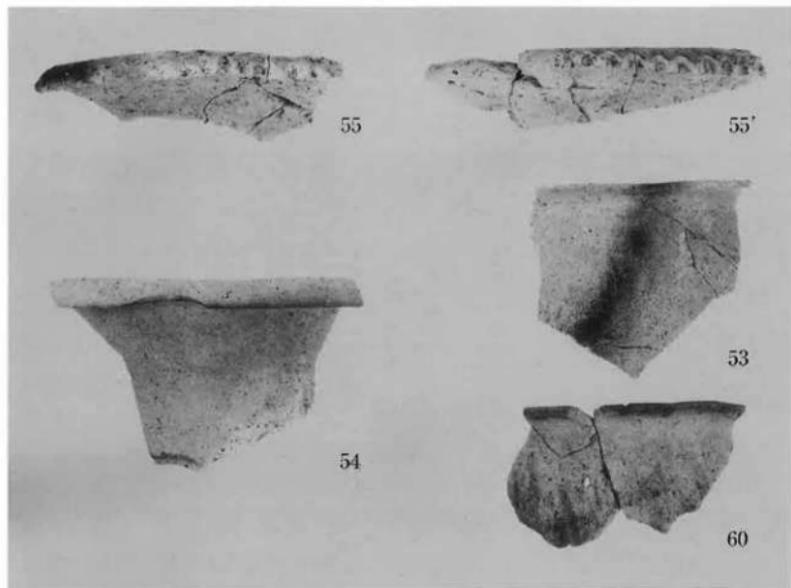
40'



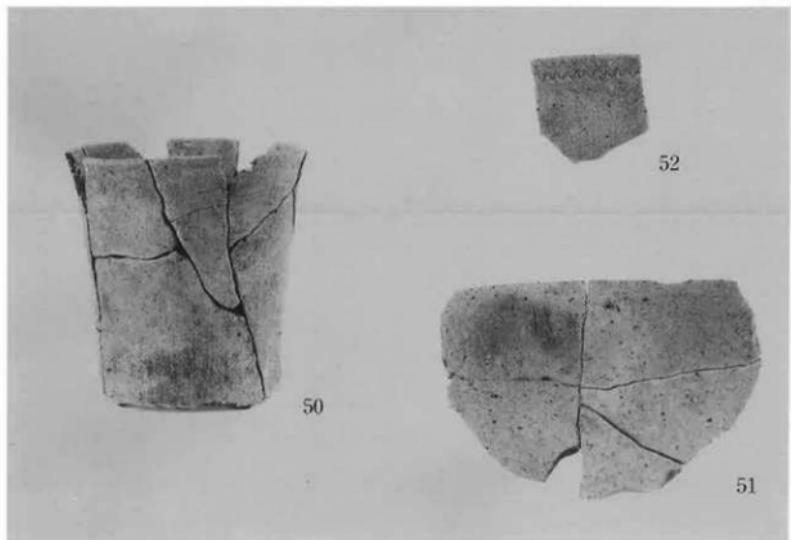
土壤1出土遺物(表裏)



第11・12層出土遺物(62はS=1/1)



第4層、第11・12層出土遺物



土壤6出土遺物

報告書抄録

ふりがな にしのつじいせきだい39 じはくつちょうさほうこぐ
書名 西ノ辻遺跡第39次発掘調査報告
副書名
巻次
シリーズ名
シリーズ番号
編著者名 金村浩一
編集機関 財団法人東大阪市文化財協会
発行機関 財団法人東大阪市文化財協会
作成法人ID 42710
郵便番号 577-0843
電話番号 06-6736-0346
住所 大阪府東大阪市荒川3丁目28-21
発行年月日 2001.12.31
ふりがな にしのつじいせき
遺跡名 西ノ辻遺跡
ふりがな おおさかふひがしおおかしにしいしきりちょう3ちょうめ
遺跡所在地 大阪府東大阪市西石切町3丁目175-1・176-1～5
コード 市町村 27227 遺跡番号 不明
北緯 34° 40' 35"
東経 135° 38' 32"
調査期間 1997.01.06 ~ 02.21
調査面積 340m²
調査原因 共同住宅建設
種別 集落
主な時代 弥生/中世
遺跡概要 弥生 - ビット + 溝 + 土墻 - 弥生土器 + 石礎 / 中世 - 捩立柱建物 + 井戸 + 土墻 + 溝 + 道路状
遺構 - 土師器 + 瓦器 + 須恵器 + 陶器 + 磁器 + 瓦
特記事項 特記なし

西ノ辻遺跡第39次発掘調査報告

2001年12月31日

発行 財団法人東大阪市文化財協会

〒577-0843 大阪府東大阪市荒川3丁目28-21 TEL.06-6736-0346

印刷 株式会社 ミラテック

〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番9号 TEL.06-6354-3081

紙質 表紙 レザック つむぎ 170Kg 本文 上質 44.5Kg 図版 コート 57.5Kg

製本 無線綴じ